

かながわキャリア教育指導資料

～児童・生徒の社会的・職業的自立に向け、
必要な基盤となる能力や態度を育てるために～

キャリア教育とは、
どのようなものですか？

キャリア教育を通して、
子どもたちはどのような力
を身に付けることができますか？

キャリア教育
で大切なことは、
何ですか？

「キャリア・パスポート」
について、くわしく教えて
ください。

これからのキャリア教育について考えましょう！

学年や校種をこえて引き継ぐ「キャリア・パスポート」
について紹介しています！



「かながわキャリア教育指導資料」（「かながわ版キャリア・パスポート」含む）
及び、教員向けリーフレットは、**神奈川県教育委員会のホームページからダウンロードすることができます。**

かながわ キャリア教育 ×

検索



はじめに

学校教育には、子どもたちが様々な活動を通じて様々な他者と関わり、多くの「出番」や「役割」を経験する中で、自らの特性が「持ち味」として認められることにより、自己理解を深め、成長していくという一面があります。各学校では、今後もこうした学校教育の「機能」を踏まえ、特別活動をはじめとした教育活動の充実を図ることが重要です。

その中でも、子どもたちが、生涯にわたり、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくための力を身に付ける「キャリア教育」を組織的・計画的に行っていくことが必要です。

このキャリア教育については、小・中学校の学習指導要領（平成 29 年告示） 第 1 章 総則 第 4 児童・生徒の発達の支援において、「児童・生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。」と明記されました。

児童・生徒がこの基盤となる資質・能力を身に付けていくためには、何よりも、こうした力が将来必要になると、児童・生徒自身にしっかりと自覚してもらうことが大切です。その手立ての一つとして、児童・生徒が自らの学びの見通しを立てて取り組み、振り返りながら、自己の変容や成長を記録する「キャリア・パスポート」の活用があります。

学習指導要領の全面実施に当たり、各学校では、キャリア教育の理念や、「キャリア・パスポート」を活用する意義等を、児童・生徒や保護者を含めた学校全体で共有するとともに、小・中学校 9 年間の中で無理なく実践できるよう、従来の学校の取組をキャリア教育の視点から捉え直し、絶えず見直しを行っていくという視点を持ち、指導計画を立てていきましょう。

神奈川県教育委員会では、この度、キャリア教育推進のポイント、そして「キャリア・パスポート」の活用等について記載した、「かながわキャリア教育指導資料」を作成しました。各市町村教育委員会や各学校において、キャリア教育のさらなる充実に向け、御活用くださるようお願いいたします。

結びになりますが、本資料の作成に御尽力いただいた、横浜市教育委員会、川崎市教育委員会、相模原市教育委員会、横須賀市教育委員会の指導主事の方々に厚く御礼申し上げます。

令和 2 年 3 月 神奈川県教育委員会教育局
支援部子ども教育支援課長

もくじ

はじめに

もくじ

I 今、改めて「キャリア教育」とは？…………… 1

II キャリア教育を推進するために
～P D C Aサイクルで考えよう～…………… 5

III 「キャリア・パスポート」とは？…………… 7

◇「かながわ版キャリア・パスポート」…………… 9

・活用について

◎小学校編

◇ にゅうがく／進級おめでとう！～〇年生のみなさんへ～

1 年度はじめ、学期はじめ～新しい学年／〇学期が始まりました～

2 自己理解、自己肯定感を高める

～自分や友達のよいところを探そう～

3 行事の見通しとふり返り～〇〇【行事】がんばりカード～

4 学期終わり、年度終わり～〇学期／〇年生をふり返りましょう～

5 校種をつなぐ～ぼく・わたしの6年間の歩み～

◎中学校編

◇ 入学／進級おめでとう！～〇年生の皆さんへ～

6 年度はじめ、学期はじめ～新しい学年／〇学期のスタートです～

7 自己理解、自己肯定感を高める～自分や仲間のよいところを探そう～

8 行事の見通しと振り返り～〇〇【行事】での取り組みを通して～

9 学期末、学年末の振り返り～〇学期／〇年生を振り返りましょう～

10 学年末の振り返り（補足）～〇年生を振り返りチェックシート～

11 校種をつなぐ ～18歳の自分へ（小・中学校での9年間の歩み）～

IV キャリア教育を推進するための参考資料…………… 37

I 今、改めて「キャリア教育」とは？



「キャリア教育」とは、どのようなものですか？何をすればよいのですか？

「キャリア教育」とは、一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育のことです。
「キャリア発達」とは、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程のことです。



子どもたちの自立や、自分らしい生き方ができるようにする教育は、これまでも行ってきましたよ。新しく何かをするわけではないのですか？

そうですね……。先生方が日常的に行っている様々な教育活動の中に、すでにキャリア教育につながる取組があります。例えば、係活動で、みんなの役に立つ活動を考え、計画を立てて自分の役割を果たすという取組は、キャリア発達を促していますね。



他にもキャリア発達を促す教育活動がいろいろありそうですね。「キャリア教育」で大切なことは、どのようなことですか。

それは、児童・生徒一人ひとりの**社会的・職業的自立に向けて必要な力**を育てることができるか、ということです。

各学校で行われている様々な教育活動を見直すと、キャリア発達を促す指導が様々な場面で行われていることに気付きます。これらの教育活動を、発達の段階に応じ、系統立てて実践することで、キャリア教育が充実していきます。



では、「社会的・職業的自立に向けて必要な力」とは、どんな力ですか？

キャリア教育を通して育成する**4つの基礎的・汎用的能力**が、あげられます。これら4つの基礎的・汎用的能力と、**キャリア教育に関わる資質・能力**を総合的に捉え、次のページに示しました。



*キャリア：人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ね。

平成23年1月中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」

学校の教育目標（目指す子ども像）

カリキュラム・マネジメント

キャリア教育に関わる資質・能力

学びに向かう力・人間性等

- キャリア形成の方向性と関連づけながら今後の成長のために学びに向かう力
- 問題を発見し、それを解決しようとする態度
- 自らの役割を果たしつつ、多様な人々と協働しながら、よりよい人生や社会を構築していくとする態度

基礎的・汎用的能力

人間関係形成能力・社会形成能力

例) 他者の個性を理解する力、コミュニケーション・スキル、リーダーシップ など

自己理解・自己管理能力

例) 自己の役割の理解、自己の動機付け、忍耐力、主体的行動 など

課題対応能力

例) 情報の理解・選択・処理、課題発見、計画立案、実行力 など

キャリアプランニング能力

例) 学ぶこと・働くことの目的・意義の理解、生き方の多様性の理解、将来設計 など

知識及び技能

- 学ぶこと・働くことの意義の理解
- 問題を発見・解決したり、多様な人々と考えを伝え合って合意形成を図ったり、自己の考えを深めて表現したりするための方法に関する理解と、そのために必要な技能
- 自分自身の個性や適性等に関する理解と自らの思考や感情を律するために必要な技能

思考力・判断力・表現力等

- 問題を発見・解決したり、多様な人々と考えを伝え合って合意形成を図ったり、自己の考えを深めて表現したりすることができる力
- 自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」をもとに、自分と社会との関係を考え、主体的にキャリアを形成していくことができる力

＜参考資料＞・キャリア教育を「デザイン」する「今ある教育活動を生かしたキャリア教育」—小・中・高等学校における年間指導計画作成のために—（平成24年8月）国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター
・幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）別紙6（平成28年12月）中央教育審議会

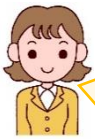
児童（生徒）が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要しつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。（その中で、生徒が自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、組織的かつ計画的な進路指導を行うこと。） ※（ ）内は中学校 「小・中学校学習指導要領（平成29年告示）総則」より



キャリア教育でめざす、児童・生徒一人ひとりが身に付ける力のイメージがつかめました。

ところで、皆さんは、教育活動を通じてどのような子どもを育てたいのですか？

学校では、どのような教育目標に基づき、どのような「目指す子ども像」を掲げていますか。



私たちの学校では、「思いやりをもち、仲間と協力して考え、行動できる子ども」という教育目標のもと、「豊かな感性をもち、学ぶ意義や喜びを通して、自分の将来を切り拓くかもめっ子」という「目指す子ども像」を掲げています。

学校の教育目標や「目指す子ども像」の実現に向けて、キャリア教育を通してどのように指導していくのか、すべての教職員で改めて考えてみましょう。



[1] 学校の教育目標（目指す子ども像）を書きだしましょう。

.....

.....

[2] [1]に基づいて、重点的に育成する基礎的・汎用的能力を考えましょう。

.....

.....

[3] [2]で挙げた、基礎的・汎用的能力についての具体的な力を、子どもの実態に応じて考えてみましょう。

*まずは学年単位で考え、次に、学年間の系統性を確かめてみましょう。

.....

[4] [3]の具体的な力を、教育活動のどのような場面で子どもは身に付けていきますか。*授業や行事等の具体的な場面を想定しながら、互いに話し合ってみましょう。

.....

.....

.....



今まで別々に行ってきた教育活動をキャリア教育という視点でとらえなおすと、学校の教育目標や「目指す子ども像」とつながって見えてきます。



また、みんなで考えたことで「目指す子ども像」を多面的に理解し、学校として取り組むキャリア教育を共有することができました。

それが、キャリア教育を充実させる、第一歩ですね。



日々の授業の中で、キャリア教育の視点をもって支援をしていきたいと思っています。その際に、どのようなことに注意すればよいですか？

大切なことは、子どもが主役になる学びを実現することです。
子どもたちが、将来のことを見通しながら、1年間または学期の目標を具体的に掲げ、振り返りながら、自分のよさを実感していくことができるように支援していきましょう。



「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」と、キャリア教育の充実は、つながっているんですね。子どもたちと「何のために学ぶのか」という学習の意義を共有し、今の学びと将来とのつながりを見通して自ら学び続けることができるように支援していきたいです。

また、このことを家庭や地域と共有し、子どもを取り巻く大人みんなで子どもを育てていきましょう。



保護者や地域の方々には、学級懇談会や学校だよりなどの機会を通して、子どもたちの学びの姿と成長を発信していきます！

キャリア教育を効果的に展開していくためには、特別活動の学級活動を要としながら、総合的な学習の時間や学校行事、道徳科や各教科における学習、個別指導としての教育相談等の機会を生かしつつ、学校の教育活動全体を通じて必要な資質・能力の育成を図っていく取組が重要になる。

また、将来の生活や社会と関連付けながら、見通しをもったり、振り返ったりする機会を設けるなど主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めることがキャリア教育の視点からも求められる。

「小・中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」より



**今の学びを通して、
将来の自分に必要な力
がつくんだ！**

II キャリア教育を推進するために ～PDCA サイクルで考えよう～

キャリア教育を充実させるためには、様々な教育活動をキャリア教育の視点で見直し、各学校の教育課程に適切に位置付け、計画性や系統性をもって展開することが必要です。具体的には、各学校や学年・学級の特色等を踏まえた **PDCA サイクルによる実践**を行うことです。



Plan (計画) *P.3 参照

- ① 児童・生徒の強みや課題を把握する。
*全国学力状況調査の児童・生徒質問紙や学校生活アンケート等の客観的なデータや資料も踏まえましょう。
- ② キャリア教育の計画を立て、行事や教科等の指導計画の中に反映させる。
*児童・生徒の強みが発揮されるような計画を心がけましょう。
*小・中学校9年間のつながりを意識した教育計画をすすめましょう。
*地域や実社会・世界情勢に教材や情報を求め、学ぶ意義を児童・生徒と共有し、多様な教育活動をつくりだしましょう。
- ③ 評価の指標を設定する。
(P19、33 参照)

Do (実践)

④ 教育活動の実践

「児童・生徒がどのように変容したか」を見取ることが大切です。

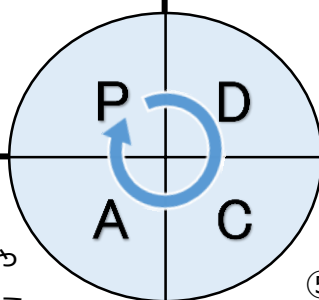
- *①で把握した強みや課題を踏まえ、児童・生徒が自分の生活や将来とのつながりを実感できる指導・支援を行いましょう。
- *子どもたちの自立を促す児童・生徒指導や個別支援を心がけましょう。
- *特に、児童・生徒の強みが発揮されているかに留意しましょう。

Action (改善)

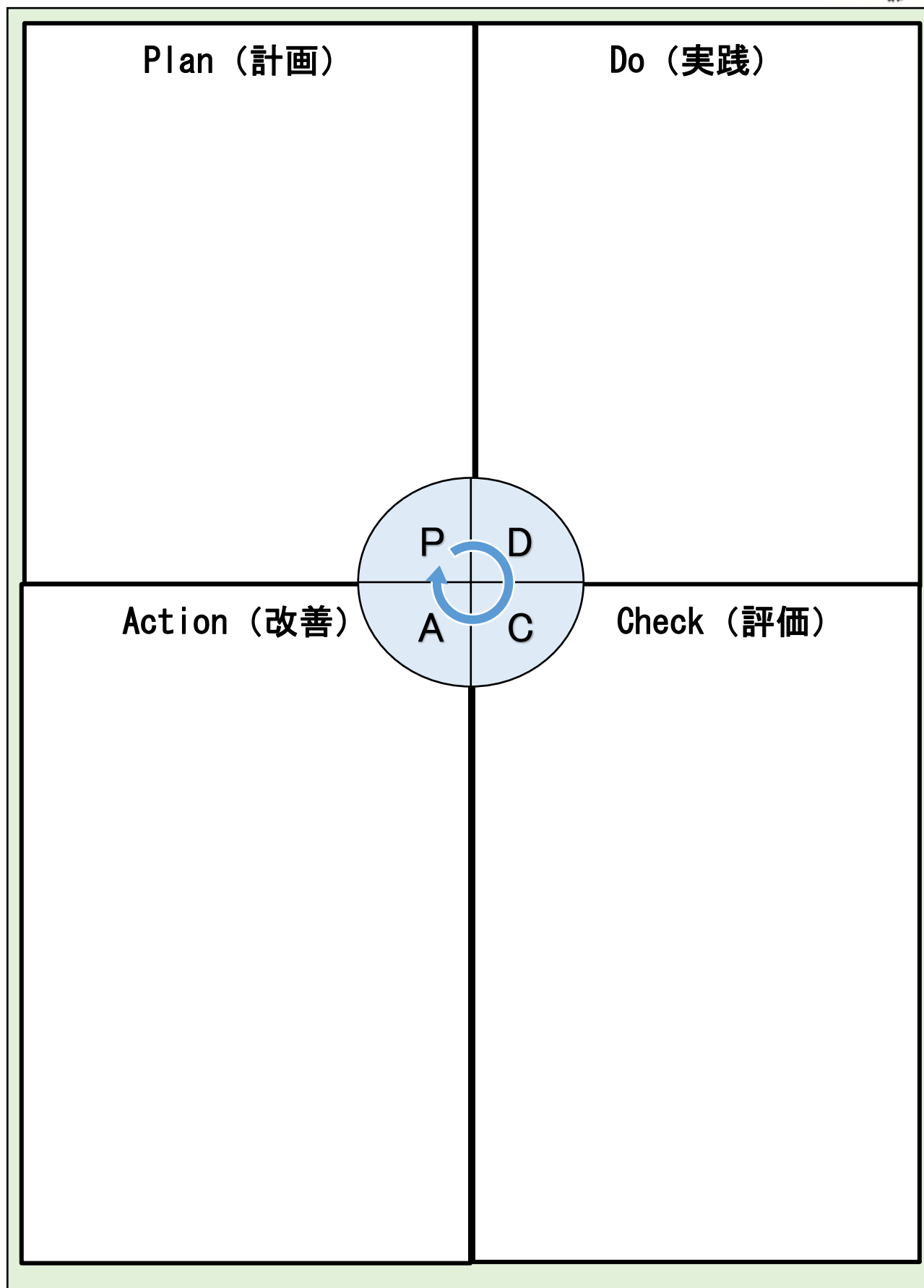
- ⑥ 改めて、児童・生徒の強みや課題を把握し、それらを踏まえ、次の実践計画に修正を加える。
*分析した結果を、次年度の担当職員へ引き継ぎ、長期的な視野で充実・改善を図りましょう。

Check (評価)

- ⑤ 教育活動全体や、個別の取組の成果や課題を、③で設定した評価の指標の結果に基づき、分析する。
*全国学力状況調査の児童・生徒質問紙や学校生活アンケート等の客観的なデータや資料を活用しましょう。



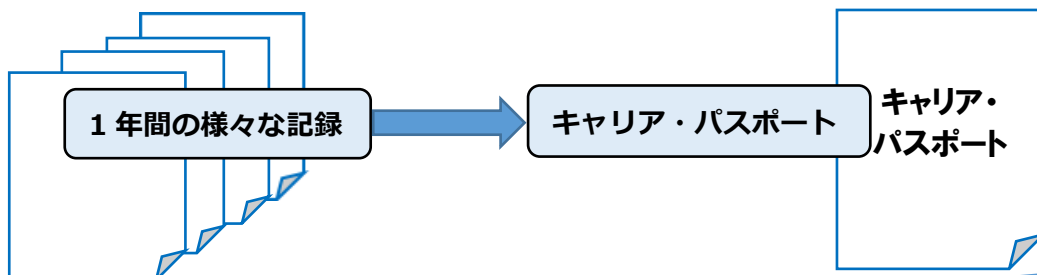
皆さんの学校や学年・学級の特徴等を踏まえた PDCA サイクルの具体的な流れを考えてみましょう。



Ⅲ 「キャリア・パスポート」とは？



令和2年度から導入される「キャリア・パスポート」とは、どのようなものですか？



「キャリア・パスポート」とは、**児童・生徒自身が自己の変容や成長を見通しをもったり振り返ったりしながら記録・蓄積し、学年や校種をこえて引き継いでいく教材**のことです。

具体的には、

- ・ 学びの過程を記述し振り返るもの
- ・ 自己の成長や変容を自己評価するもの
- ・ 今後の生活の改善に生かしたり、将来の生き方を考えたりするもの 　　です。

令和2年4月から、すべての小・中・高等学校で実施されることになりました。

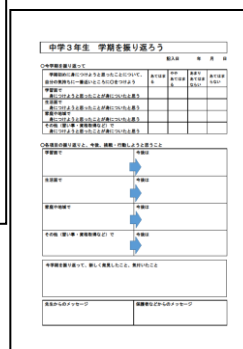
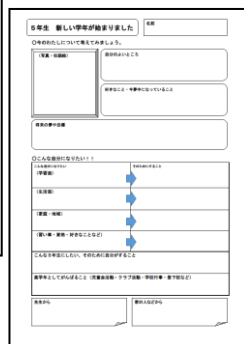
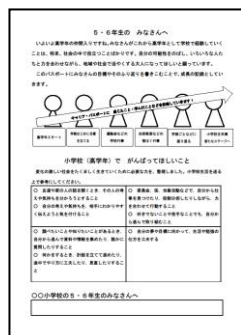
学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこと。

「小・中学校学習指導要領（平成29年告示）総則」より

指導に当たっては、学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこと。その際、児童（生徒）が活動を記録し蓄積する教材等を活用すること。

「小・中学校学習指導要領（平成29年告示）特別活動」より

まずは、文部科学省が作成した「キャリア・パスポート例示資料」を読んでみましょう。



* 「キャリア・パスポート例示資料」は文部科学省のホームページからダウンロードできます。
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/detail/1419917.htm



同じような教材はすでに活用していますよ。でも、学級や学年内での取組にとどまっていて、翌年に引き継ぐことはしていません……。

学年をこえて、このような教材を「キャリア・パスポート」として活用することで、どのような効果が期待できるのですか？

学年や校種をこえて引き継がれた資料をもとに、**児童・生徒自身が、長期的に自己理解を深めていくことが期待できます。**

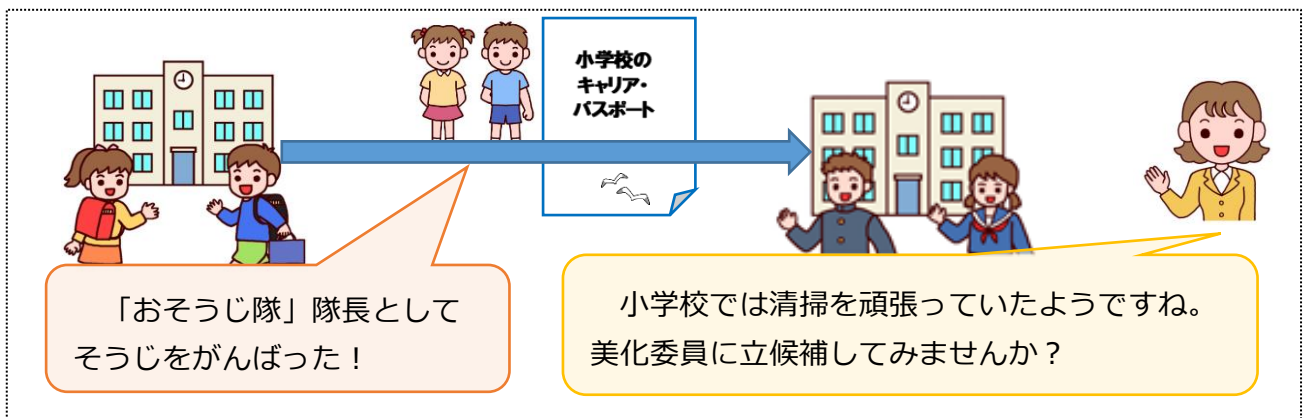
児童・生徒自身が、学校生活の見通しを立て、記録した様々な資料を学期末や年度末等で振り返るだけでなく、次の学年、またその次の学年へ引き継ぐことで、自分の成長の軌跡から、将来の自分の姿を思い描くための有効な手立ての一つになります。



「キャリア・パスポート」は、学年や校種をこえて引き継ぐことで、児童・生徒自身が自分のキャリア発達を自覚する効果が期待できるのですね。他には、どのような効果が期待できますか？

「キャリア・パスポート」を活用することによって、教職員だけでなく、保護者や地域の方々を含め、**様々な大人が、一人ひとりの児童・生徒に寄り添いながら、より対話的に関わる事が可能となります。**

児童・生徒自身の変容の自覚や、その変容を踏まえた目標設定ができるような指導・支援を心がけましょう。



教職員をはじめとした、児童・生徒に関わる大人みんなで、**一人ひとりの児童・生徒をより深く理解し、彼らのキャリア発達を支援する効果が期待できるのですね！**